

タマガワホトトギス *Tricyrtis latifolia* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 12。温帯性の植物で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は縦に伸び、横に走出枝を出す。地上茎は斜上し、高さ 40~80cm、ほとんど無毛である。葉は互生し、葉身は広楕円形、長さ 8~15cm、幅 3.5~6.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形で茎を抱き、辺縁は全縁である。花期は 7~9 月、茎の先端と上部の葉腋に散房花序をつけ、花被片は 6 枚で黄色、斜めに開き、内面に紫褐色の斑点があり、内片は長楕円形、長さ 20mm 程度、外片は楕円形で内片より幅広く、基部に大きなふくらみがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 38412, 1992-7-25)、6 設楽西部 (芹沢 83177, 2008-9-6)。

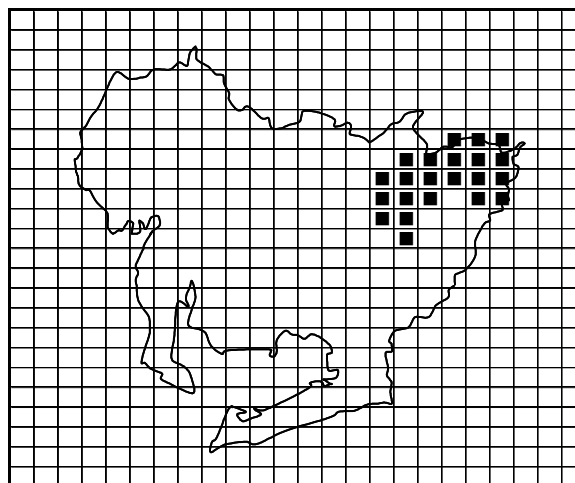
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの湿った岩場に生育する。愛知県の生育地はいずれも林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

非開花個体は比較的多いが、被陰により衰退傾向が著しく、開花する個体は僅かである。

【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れが必要である。

【特記事項】

和名は、黄色の花をヤマブキに例え、ヤマブキの名所である京都府井手の玉川の名を借りたものだと言われている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.146, 平草本Ⅰp.25, 平新版Ⅰp.176, SOS旧版p.96.